

令和3年度元気なコミュニティ特選団体の概要

番号	市町村名	団体名	活動の概要
1	盛岡市	中永井自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・いわぎんスタジアムに加え、盛岡市の大型プロジェクトで整備される施設等(JR岩手飯岡駅東西自由通路・新駅舎、県との共同による新野球場の建設等)による新たな賑わいをこれからのまちづくりに活かしながら、子どもたちの未来につながる活動として“市民協働でスポーツのまちを盛り上げる『盛岡南公園おもてなしプロジェクト』”を開始した。 ・いわぎんスタジアムの玄関口の一つであるJR岩手飯岡駅西口を中心に、訪れた方々を気持ちよくお迎えできるよう花壇や沿道の環境整備を多様な世代を交え行っている。
2	盛岡市	城南地区地域づくり委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化を図るという課題解決に向けて地区住民が主体となり平成25年に「城南地区地域づくり計画」を作成し、「古都の雰囲気大事に活かすまちづくり」を目標として、「安全」、「商い賑わう」、「文化」、「心」の4本柱で活動を進めている。そして、城南地区以外の住民や修学旅行生、ネットで城南地区情報を入手した広範囲の人々が城南地区に関心を持ち自ら訪れてくれる魅力ある地域づくりを住民一体となって進めている。
3	盛岡市	特定非営利活動法人いなほ	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども・高齢者・被災者・社会的弱者」を縦軸に、「安心・支援・自立・生きがい」を横軸に、地域住民がホッと居場所としてコミュニティ食堂(毎月開催)の場を創出している。具体的には、当団体は4つの事業「被災者支援」「子ども支援」「コミュニティ食堂」「居住支援」を手掛けており、その共通のテーマが「居場所の創出」である。
4	滝沢市	室小路自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会が主体となり、子ども会、中学校地区生徒会、老人クラブ等と連携した事業を開催し、世代間交流活動等を恒常的に行っている。 ・平成31年4月には、自治会内に新設校「滝沢中央小学校」が開校したが、開校準備委員会のもとに設置されたワーキンググループに自治会として参画し、通学路の検討や、安全マップの作成、スクールガードの配置等について検討を重ね、以後、児童の見守り・安全確保に注力している。 ・令和2年度には、更なる児童の見守り・安全確保のため、自治会内の事故や怪我に繋がる可能性のある場所などに関する情報を共有化するアプリを使った実証実験に参画し、危険個所の解消に繋げる取り組みを行った。
5	奥州市	真城が丘町内会	<ul style="list-style-type: none"> ・当町内会には、老人会・青年会・子供育成会・地域ネットワーク委員会(福祉活動)など、5つの組織がある。また、これまで住民が自主的に設立した各種サークルが11団体もあり、現在は70代になった高齢者が中心となって活動している。 ・住民の健康・福祉・趣味等の関心が高く、ふれあいや生きがいづくりを求めている人も多く、これまで培ってきた人(住民)の繋がりを地域資源として集会所を中心に活発な活動を展開し、高齢者の健康増進等に寄与している。
6	奥州市	稲瀬の足を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスや予約型乗合タクシーの運行事業者が撤退し、公共交通空白地となった江刺稲瀬地区において、住民の生活の足を守るため、地元の地縁団体である稲瀬地区振興会が母体となった任意団体「稲瀬の足を守る会」を設立し、「稲瀬ふれあい号」を運行している。 ・運行は週3日、1日6便としており、地区内の各地に設けられた乗降場所と、地区振興会の拠点であり地区コミュニティの中心的な役割を担う稲瀬地区センターを経由して市街地と往来する市営バスへの乗り継ぎ利用者を運送することが主な役割となっている。
7	金ヶ崎町	荒巻自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・荒巻自治会は、金ヶ崎中部工業団地近くに位置し、古くからの住民の他、工業団地に勤務する新しい住民が多く転入する地域であり、災害時の避難等の防災体制の浸透が課題であったが、阪神・淡路大震災を教訓に自主防災組織「荒巻地区防災会」を平成9年に創設し、「災害時に自分たちの地域は自分たちで守る」との意思を持って、住民主体で毎年防災訓練を実施しており、新興住宅地も含め、積極的に地域の防災力を高める活動をおこなっている。 ・住みやすい地域を目的に、自治会内での運動会、盆踊り大会、芋の子会などを開催するなど、住民の交流を積極的に行っている。
8	平泉町	弁慶力餅競技保存会	<ul style="list-style-type: none"> ・平泉町第11区、JR平泉駅前地域の活性化を目的に、1926年に企画運営された弁慶力餅を後世に紡いでいく為に設立された。現在では毎年開催されている春の藤原まつりの主要イベントとして定着しているほか、競技には町内をはじめ近隣市、東北各地、遠くは大阪府や徳島県、海外ではポーランドからの参加がある。 ・毎年5月1日には「弁慶の力餅つき」が行われ、大会で使用する餅と観光客などに振る舞う「振る舞い餅」をつき、納豆餅を食べた事のない観光客から好評を得るなど、保存会の活動は競技大会のPRだけではなく、平泉の餅食文化の発信にも繋がっている。 ・現在では、世代の垣根を超えた町民の交流を図るため、14年に「子弁慶の部」、16年には「女性の部」、「ちびっこ弁慶の部」が新設され、大会の活性化に取り組んでいる。また、町内で開催される各種イベントでの餅振る舞いや餅つき体験なども行っている。
9	宮古市	津軽石郷土芸能団体協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・津軽石地区には古くから多くの芸能団体が存在し活動を行ってきた。しかし高齢化や後継者不足が進み、郷土芸能の伝統の継承が課題となっている。地域の伝統文化を守るため、郷土芸能の保存・伝承や、加盟団体の相互交流、青少年の育成を行い、地域一丸となり取り組んでいる。
10	釜石市	大畑団地自治会	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り作業や側溝清掃等の環境整備、自主防災組織設置、防犯パトロールの実施などに加え、見晴らし会(壮年クラブ)による防犯活動や環境整備、スポーツ活動、ひまわり会による地域住民のための介護予防支援事業など特徴のある事業を行っているなど、地域住民の自主的な地域づくり活動を推進している。また、高齢化が進んでいる状況と路線バスが通わない場所であることから、将来に備えて地域住民の交通手段確保について準備を進めている。

令和3年度元気なコミュニティ特選団体の概要

番号	市町村名	団体名	活動の概要
11	大槌町	臼沢自治会	・東日本大震災後に災害公営住宅が造成されたことで震災前と比較して住民が増加した地区であり、震災前からの住民と新たに移住した住民との交流促進が課題となる中、サロン活動、地区内環境整備活動、各種同好会立ち上げや隣接自治会との交流等を行い、地区内外に向けたコミュニティ活動を積極的に行っている。
12	山田町	織笠地区コミュニティ推進協議会	・地域住民の交流や日常生活の高揚及び郷土愛の醸成を図るため、30年以上の歴史がある地区演芸会の開催や環境美化活動・教育振興運動・夢灯り等の各種事業を推進している。
13	久慈市	小久慈まちづくり協議会	・小久慈まちづくり協議会は、協議会立ち上げ以前より地域の先輩方が行っていた事業を、小久慈町全体が一丸となって組織立てて統一的行っていくという目的のもと、地域住民が主体となり住民組織として立ち上がった。 設立から13年が経過した現在でも、協議会役員を中心に、活力ある小久慈町を目指し、活発に事業活動に取り組み、住民と一体となり地域づくりを進めている。
14	久慈市	荷軽部自治会	・高齢化と小中学校統廃合等により、地域の活力が失われつつあるという課題があったことから、地域活性化を目的に、次世代を担う荷軽部青年会と連携し、積極的に地域が一体となる事業を開催。 具体的には、郷土食である「まめぶ」の伝承と普及による地元愛の育成と荷軽部ファンの拡大、教育旅行やグリーンツーリズムに係る農泊の積極的な受入れ、環境保全活動や地域行事の開催による地域一体感の醸成及びリーダーの育成を行っている。
15	二戸市	上海上自治会	・上海上自治会では、地域コミュニティの維持と活動を活発化させるため地域の最重要課題である耕作放棄地の解決に向け、地域住民が主体となり「上海上地区地域づくり計画」を作成し、計画に沿った農地維持活動を進めている。 また、地域内の集会施設の花壇整備や通勤・通学、生活道路として日常的に利用する道路沿いの景観保全、地域の特産品（ブルーベリー、アイガモ米、ショウガ、蕎麦）の試験栽培、隣接する集落にある児童館に通う子供たちとの農業体験交流の開催、伝統芸能継承活動として地域に伝わる盆踊り「海上なにやとやら」を通じて、地域づくりを住民一体となって進めている。
16	普代村	鶴鳥神楽保存会	・鶴鳥神楽は、北廻り（久慈市まで）、南廻り（釜石市まで）と称して、一年交代で三陸沿岸の村々を約2ヶ月間かけて巡行しており、清祓・山の神・恵比寿舞など10演目程度を演じている。また、神楽の定期公演の開催により全国への鶴鳥神楽のPRや村の観光・交流人口の向上、自らの技・技術の向上を目的に活動している。
17	軽米町	湧口倶楽部	・人口減少により地域の活力が低下してきていたことから、地域内の若者を中心として、湧口倶楽部を組織し、地域の宝である「折爪岳」と「岳の湧口」を活かした活動により、地域の絆を復活させるとともに、地元産雑穀などを活用した体験交流活動を展開することで、地域の再生を図っている。
18	野田村	泉沢部落会	・泉沢部落会では、少子高齢化に伴う地域づくりや文化の伝承という課題があったことから、村社「愛宕神社」例大祭に併せて開催される本村最大のイベント「野田まつり（旧野田観光まつり）」にいち早く子どもみこしで参加し、地域文化の継承とともに世代を超えた交流を図っているほか、地区の「八幡神社」祭典と二百十日祭の同日開催や、地区一斉草刈等による景観整備などにより、地区住民一体となった世代間・地域交流により地域づくりや文化の伝承を進めている。
19	洋野町	種市海鳴太鼓	・昭和58年、町内の夏祭りのゲストに招待した太鼓団体が、当日の雨天による順延のため出演できなくなったことから、翌59年の祭りまでに日程が変更されても出演できる自分たちの太鼓を創ろうと一区町内会の若者たちが立ち上がったのが種市海鳴太鼓結成のきっかけとなり、59年の祭りでは、華々しくデビューをした。結成16年目の平成12年より後継者育成のための太鼓教室を企画し、毎年50～100名程度を迎える太鼓教室発表会を開催するなどの活動を展開している。
20	洋野町	中野地区コミュニティ協議会	・当協議会は洋野町中野地区のコミュニティ活動と生活改善及び福祉の向上を図ることを目的に昭和47年の発足以来、子ども会活動およびスポーツ少年団活動を通じた小中学生の健全育成、環境美化、敬老行事の開催、郷土文化の保存、防災および防犯の推進、集会施設および体育施設の管理業務など、地区住民や団体のニーズに幅広く機能している。